平新報

發行日每月三回五ノ日發行
編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町三丁目三番地　平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五十錢　場所指定倍增
送料定價一部金十錢

初の明治節を祭祀奉る

明治大帝の御遺業を偲び奉るため、十一月三日を明治節と制定せられた事は本年三月三日の詔書の通りであるが、去月十四日皇室祭祀令を以て、この祭日を他の三大節同樣宮中三殿の祭典をあげ、祭賀並に文武百官の豐明殿に於いて宴會を催さるゝ事になつた、これで明治節が宮中小祭となりこゝに新しく四大節が出現した譯である。

□

神武天皇御即位の御日二月十一日を紀元節とし永久に祭祀を行はせらるゝと等しく、帝國創立以來劃時代の明治御維新に當りて御治世遊ばされた、明治大帝の御生れ遊ばされし十一月三日の御日を明治節として祭祀さるゝ又宣なるかなである。

□

神武天皇即位紀元二千五百八十八年この方すべてに維新されたるは、明治御維新の如きはない。先づ服裝に於て男子總髮が斷髮となり、帶刀は排せられ、陰曆は陽曆とせられた如き、生等帝國歷史を繙きてこの感深くするものである。

□

この御維新に當らせられて、內治外交四民平等今日の昭代となされたる、明治大帝の御生れの十一月三日を合せて四大節として永へに祭祀さるゝ事吾等同胞心して祭るべき紀念日である。生等、明治時代に生ち育まれて彼の小學生時代菊花の馨りの十一月三日「今日の良き日は大君の御生れ給へし良き日なり」を唱ふて御眞影を拜し、校長の敎育勅語捧讀を拜聽した。その莊嚴なる儀式は念頭を去らぬものである。

□

時代は進みて大正、昭和の時代とはなれども、敎育勅語、五誓文は生等同胞の體すべき明御敎訓である。今や時代思想は惡化、赤化等その聲を聞く、いつの時代も二大思潮の流れは免かれぬとしても、生等は建國の大精神を忘れてはならぬのである。生等同胞こゝの意義ある紀念すべき初の明治節を祭祀するに當りて生を昭代になす。又多幸といふべきである。

「眞立」

磐城平は私の第二の故鄕である

米澤市商業學校　須藤榮吉

拜啓

數日前でした、一たばての新聞が私の机の上に乘つて居ました。ハテナ何處の新聞だらう、と思つて封を切つて見ると、平の新聞懷かしい磐城の新聞である。然かし平の新聞が私に送られる筈もないがと讀んで見ると、山野邊庄吉氏主筆の新聞であつた。そして多分山野邊君から惠與されたものだらうと私は考へました

記憶は十數年の昔に立ち返る、そして山野邊君のあの特長のある顏を、私はハッキリ眼前に描き出す事が十分可能でありました。

八ケ年御世話になつた磐城中學八ケ年日夕親しんだ磐城の山川風物、八ケ年說敎（これは私の生徒から奉られた尊號）を聞いてくれた、青年諸君、是等は私の記憶の上に深く深く燒附けられた烙印であります。

そして終生私の生活の上に歡喜の源となつて樂しい思出の泉を湛へて吳れるのであります。

山野邊君　君が磐中の演壇に獅子吼した事を私は記憶してゐます。それが今磐陽の天地に健筆を呵し雄辯を振つてゐるのですね、大にやつて下さい、普選が實施された今日、新らしい社會運動が鬱勃として擡頭して來た今日、新聞記者の使命は實に尊嚴にして又高貴なものである。新聞記者の前途は實に多望にして又壯快なものである。

磐城平は私の第二の故鄕である。私は幾百の若人達の勇ましい姿で社會に活動してゐるのを歡喜の眼を以て視て居ります。その人達は嘗て、私の敎室內に居つたのであります。我が山野邊主筆もその一人であります。あの新聞をいたゞいてから四五日といふものは私は頭の內が明るくなつた樣な氣持でした。どうぞ磐中健兒の意氣を以て、御奮鬪あらん事を切望します。そして貴社新聞の益々發展する事を御祈り致します。

匆々

△右は元磐中敎諭須藤榮吉氏より本社山野邊主幹に寄せたものである。

新川柳

東京　秦獅子郎選

「海岸」

松並木海にそむいて立ちならび
海岸も岬もかすむ雨が降り
話とだいて海を見る波の音　平　あきら
新舞子大平洋の松の聲
海岸へ求て又我も素足なり　宮　茶柱
海岸の砂から甘い戀が湧き　川前　余花郎
土用波飛沫に秋の冷を見せ
蒼白い顏に海岸眩し過ぎ　磐崎　狂水
海岸はもう少しですと宿の下女
日歸りで賑ふ海の人の波　棚倉　有頂天
唯病氣唯海岸に來て遊び　田人　一角
海岸の夜汽車松風波の音
砂へ書く戀人の名を波が消し　平　東天紅
海岸にある別莊へ肺を病み
燈臺を背景にするロケーション　平　新坊

自句

汽車の窓海岸へ來て首が寄り

話耳目

鈴木さんに

■新縣議の鈴木辰三郎君去十九日訪問の本社員を怒喝して曰く「アンナ新聞に寫眞版を依賴した事はない」又「寫眞の入つた新聞を見た事ない」その口で「新聞を〇屋の方へ送られてはコマる」とか何だかオカしな事であるが、鈴木さんに經營者の筆者から紙上で御答へする。君の寫眞は去月十六日君が縣議立候補運動最中、君の事務所の大和田與平氏から依賴をうけて、銅版となしたものである。又小泉立憲氏より所望されて新聞貸しもした。それが惡かつたのですかネ、鈴木さん、貴下の肖像揭載の意味は「大和田氏から」どうであつてもそんな事を問題にしてどうのなんのと叱りトバすのは、どういふ心根かしら政治家として「縣議」として今少し大きく出たらどうです君に「アンナ新聞」とは何事か、後脂指さるゝ事はないツモリである先づ君の關係する新聞及び社員の行動を顧みてから、他を難じ批判し給へ。如何に君が縣議となつたから在平旬刊の惡口無禮御免の鑑札を貰つた事でもあるまい一體近來所謂紳士連で、筆がとれないからとして、新聞記者の惡口をして平氣で當り前の如く心得て居る人がある。記者が筆での批判は天職である。紳士は紳士らしくしたらどうだ。

野崎さんに

■貴虎會々長吉田廣三郎君玉川出身のクセに野崎氏を應援せぬは……云々と、オイ吉田君生れが同じ所だから應援せねばならぬといふ法則でもあるかい、そんな事なら野崎氏は先づ本社は勿論在平玉川出身者にどういふ仕打と態度をなして居つたか、先づ自らを省みずして他に要求とはアマリ虫が良すぎるテ、同村出身者が數多い平町にして野崎氏に應援せるもの山野邊辯護士のみそれだけ野崎氏が不德の致す所以である。それを判らぬ廣三郎君でもあるまいにサテ〳〵理窟の判らぬ人ではある。兎に角アマリ過去の事は言ぬ事だテ壘をタ、ケばホコリが立つ

詐欺橫領とは

■某新聞經營者縣議改選直前日刊にするからと稱して廣告援助をうけて日刊にもせず、すべて五色街で費消し恬として恥とせず大面をして居る。これが詐欺と申すものである。又茲に某新聞社員が主幹の留守中廣告料を費消した、これを業務橫領と言ふのである。又一つ某新聞社員他社の領收證綴を拾得して其社へも屆けず默つて居るものがある。これを專有離脫物橫領とはいふのである。

〕〔　〕〔

奉祝明治節

平町五丁目　磐城建物株式會社　支配人　井上貞治郎　電話四一八番
平町三丁目　三井呉服店　電話三八番
平町白銀町　釜清商廛　電話三二九番
平町四丁目　荒物商　伊勢屋商店　電話四五番
平町土橋　ヤマフル醸造元　塩屋　山崎合名會社　電話　營業用一〇番　醸造場二七番
平町二丁目川端　小松崎洗張店　電話七七〇番
平藝妓屋組合
平驛前　阿部石炭商店　電話二三七番
平町田町郵便局裏通　佐川齒科醫院　佐川渉
平町二丁目裏通　越乃家　電話三三〇番
平町料理屋組合
平町南町　疊商　岡田政次郎　電話五五七番
植木「ボンサイ」皐月和洋草花「フクヂユソー」霧島ツ、ジ各品養生販賣　百花園　長谷川忠藏　平町四軒町十三
平町鎌田町　町會議員　佐藤岩次郎
平町二丁目　荒物商　大一屋　電話一三番
日本生命保險平代理店　中野甲藏

石城郡銀行組合

平町　株式會社　磐城銀行
平町　株式會社　平銀行
平町　株式會社　磐越銀行
平町　株式會社　磐城實業銀行
植田　株式會社　磐東銀行
四倉　株式會社　四倉銀行
平町　株式會社　七十七銀行平支店
平町　株式會社　第百七銀行平支店
平町　株式會社　福島縣農工銀行平支店
植田　株式會社　常磐銀行植田出張所

東部電力株式會社　平營業所長　武田精一
久ノ濱町　堀部留造
四ツ倉銀行　頭取　吉田保之助
四ツ倉電氣株式會社　社長　新妻盛
平町釜屋商店　總支配人　諸橋守次
會計　諸橋元三郎
平町中野呉服店　支配人　中野康平
平町關內油店　關內正一
平町新川町　吉田義男
平町二丁目　坂田金物店　坂田藤助
株式會社平銀行　頭取　山崎與三郎
湯本町　御料理旅館松柏館　比佐榮一
內鄕村　不動澤炭礦々業所　主任　菊地傳一郎

平町南町　平產婆看護婦學校長　淸野キヨ
平町搔揚小路　堀江工業株式會社　專務取締役　江口忠一
平町紺屋町　御料理旅館　住吉屋本店　電話一五九番
平町一丁目　飯田一二
平町四丁目　株式會社　百澤商店　電話一二番
平町四丁目　宍戸屋魚店　松崎佐平　電話二二五番
平町四丁目　關內藥舖　電話四十番
平町二丁目　西村屋藥舖　電話三番
平町材木町　阿部治平　電話二六番
平町三丁目　大谷時計店　電話一九番
平町長橋町　性源寺住職　渡邊則成
福島縣農工銀行平支店長　河西八十治
小田炭礦株式會社　社長　萩原仲八
古河炭礦株式會社　好間礦業所
植田町　縣會議員　鷺清昇
植田町　縣會議員　古川傳一

肺結核、肺尖加答兒、肋膜炎の優秀藥が始めて出來ました。
特効新藥　**スーパー錠**　十一日分七圓　卅三日分廿圓
幾多の實驗者が立證せる効果は……
一、熱は日に增し下る　一、咳嗽及啖がなくなるか又は少くなる　一、盜汗が全くなくなるか又は少くなる　一、食慾が增進する　一、倦怠がなくなる　一、呼吸困難が樂になる　一、安眠が出來る　一、肋膜炎は水が除れる
縣下代理店　平町五丁目角　**山野邊藥局**

寒さ迫る

暖かい防寒具が各種豐富に揃ひました
オーバ　六・七圓ヨリ
トンビ　十一・二圓ヨリ
大人マント　七圓五十錢ヨリ
其外
婦人コート・婦人マント
モヂリ外套
學生外套
全部荷揃ひ
あかや洋服店
磐城平貳（電二〇三）

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
電話長三番

姓名用　邦人　**ゴム活字**　發賣
本品は學生諸君を主とし姓名を組み込み即座に販賣する新調のゴム活字です
各學校學生諸君……ミナサンのナマヘをスグにクミタテ゛アゲマス
『良く安く直ぐ出來る活字式ゴム印』の御利用を御薦め致します

姓名及活字挾ミ共【五字迄】

一組　金拾五錢
現品は店頭ニアリマス
特約販賣店　淸仙堂
綿引秀親印房
平町一丁目二〇
電話四五二番（呼）

時事雜觀

平町役場新築

△永年の懸案たりし平町役場移轉問題も愈々具體化し去日の町會に於て近く敷地埋立及び廳舍設計費支出につき町會に諮ると

平火葬場新設

△平町にては從來火葬場はなく隣村好間村の火葬場を借用せる爲めその不便尠なからず尙狹隘をつぐる事あるを以て町會にて協議の結果これ又新設と決し、敷地豫定地は大寶寺南方杉林中を候補地となし目下町當局に於て豫算編成中の由

新川惡水豫防工事

△平町飯野村及び內鄕村の一町二ヶ村よりなる新川惡水豫防組合に於ける新川改修は川畔の櫻樹移植が問題となり長橋、月見橋間を除く上下流は改修護岸工事略完成を見たる今日、尙行惱みの體なるに平町新開地は南裏地主會の努力により日々拓け行く爲、新川改修は急を要するが適當なる方法なく委員連何れも頭痛に病んでゐると

小名濱港修築

△小名濱港修築費は、大藏省議で削除されたと傳へられたので縣では船越土木主事を上京させ內務、大藏兩省に就いて問合せたるに內務省では小名濱商港必要を認むるも大藏省の豫算に算することは本月二日の內示會までは知る事を得ず縣當局は不安にかられつゝある然し內務省ではあく迄小名濱港修築意向なるため諸材料蒐集に本省より淸水土木局長をして鹽釜港、土崎港と小名濱港とを實地調査して比較せしむべく十月末來縣視察せしめられしと

白井遠平翁

△本縣農工銀行頭取白井博之氏嚴父正八位元代議士白井遠平翁は去る十月九日東京本鄕の自邸に永眠された享年八十二才畏き邊りに於ては翁の生前の功により特に從五位に叙せらる石城實業の發達は翁に負ふ處が多い、葬儀は十月十五日午前十時より平町南町磐銀空地の葬場に告別式執行中央地方の貴顯政客實業界の花輪の寄贈弔辭等山の如く近來稀なる盛葬であつた

平新街路貫通

△南裏新道路完成に障得となつて永らく問題になつて居た新川町通りは此程地主會の斡旋により町當局と吉野鐵工場との間に圓滿解決され、尙長橋通りも地主との間に圓滿な解決を見たので漸く新道路は新川町より長橋町に貫通された譯であつた。

聖公會講演

去る十月二十九日土曜日午後七時より平町搔槌小路學校下〔平聖公會〕では、勞働者矯風會長杉浦義道師を招ぎ講演會を開催せる所非常なる盛會であつたと

出火!!!火の用心

去月二十五日八時頃夜平町丸ほん家具店の家具製作工場（舊城跡下）より出火同工場三棟全燒して鎭火したが損害は約二萬圓の由

同月廿七日午後十一時半頃飯野村上荒川にも火災があつた。

釜屋にて噴水蛇口寄附

平町釜屋商店にては平松ケ岡公園辨天池に噴水蛇口を寄贈する事になつて居りそれが形につき考案中今回龍形と決定東京に注文中であつたが過般着荷、基礎工事も成り居る事來春櫻花時には取付完成すべく松ケ岡夏の景情を益々冷凉たらしむる事であらう

釜屋新宅移築成る

平町釜屋商店向ひ新宅は新川邊りに移築中であつたが今回落成した。尙ほ同店向は同店の倉庫たらしむるべく近々工を起すとの事淋しき五丁目をより以上市街美化する事であらう

庚戌組合箱根視察

平町二丁目庚戌納稅組合にては今回箱根視察をなした

磐女校長決定

平町磐城高等女學校長櫻井賢文氏去りし後暫らく欠員中であつた同校長は左の如く喜多方中學校木村氏任命され去月二十五日着任した尙ほ長谷双中校長は喜多方校長に榮轉

喜多方中學校長兼教諭　木村寅三
補磐城高等女學校長兼教諭
双葉中學校長兼教諭　長谷訥藏
補喜多方中學校長兼教諭
滋賀縣彦根中學校長兼教諭　內田亭
補双葉中學校長兼教諭

赤井村長後任

赤井村前村長若松美三氏辭任しそれが送迎會を去月拾九日午後一時より同村小學校に於て催した

記者より觀たる事業と人物（一）

そが經營ぶりと發展は如何に！

安藤信熙記

鈴木堅助氏

時勢に順進する 西村屋藥舖

御サムライ商人、今は平町藥種商の老舖……くすり……西村屋……と聯想される有名な藥舖である、時代の進運に伴れ發展するのは營業方針が進步的な爲である。若主人箭山邦三郎氏は人も知るキャメラ、マン「商賣ものだからと云ふ勿れ」その技は眞に堂に入つたものでとてもソンジョソコラの駈け出し寫眞屋の及ぶところではない、藝術家肌の愉快な人で對談すれば警句口をついて出でファーストインスプレーションの良い人で店員の世話がよく同店からは良い人を出してゐる

關內正一氏

文化に平行する 關內油店

近代文化の發達と油の需要とは何時も平行するものである、やがて市になる平町には只一軒輕油を取扱ふのは「關內油店」があるのみ

店主正一氏は少壯氣鋭の實業家然し自ら奮鬪せずとも他人が厭應なしに儲けさせて呉れるにも不係席の溫まる暇もない、それは支店を常磐線關本驛前へ置き油槽所を平町田町へ設けて充分にあらゆる油は供給せらるゝも尙萬一需要家に不便を來たす樣な事があつてはとの商賣上と公私の交際上とで實に忙しい。

店員諸君の熱心な努力と賢明なる夫人の內助の力が氏をして後顧の憂ひなく活動し得らるゝものであつて其事業は益々擴張されてゆく

良い物を安く賣る なかや洋服店

現代文化人の福音！

よく急の間に安く調へられる洋服を賣る店に二丁目の『なかや洋服店』がある

遊山や、乘馬やなどに暇をつぶす資產家有閑階級は知らずこう世智辛くなつてきては、流行の、粹の、なんぞは沙汰の限りで少くも、サラリーマンに丈でも安い！『身體に合ふ』『見立てのよい』すぐ着られる服でなければなるまい、そしてその便宜を計るのでなければならぬ、昔は安からう惡からう、と云つたものだが現代は善い品を安く賣るのでなければハヤラない、つまり……『なかや洋服店』のよく賣れるのは善いものを安く賣るからである

患者に滿さる 高久病院

平町横通り高久病院は眼科齒科を除く、內外科レントゲン科等凡ての診療する院長高久氏は內科の泰斗熱心氏は若いに似合はず多趣味人で又趣味の人である、門前常に患者の山を築き病室も滿員を告げてゐる、外科の赤羽氏亦刀圭界の新人であるが院長內科の名聲に押され氣味は氣の毒だ然し一度メスを握れば他の追隨を許さぬものがある。

院長は常に弱い己れの身體をかへりみず具管患者の診療に懇切熱心に從事して全快に全力をつくす……

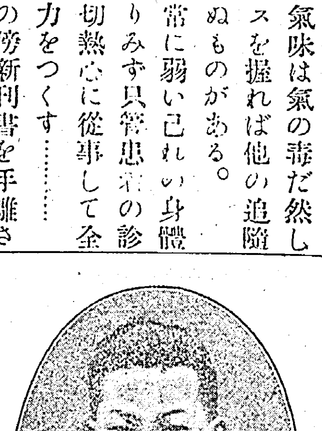
尙醫業の傍新刊書を手離さず音樂、文藝に深い理解をもち殊に天才的閃きは新派歌詞にあらはされてゐる事は讀者御覽の通りだが、夫人もまたアラ、ギ派の閨秀歌人である、藥局には綿密なる佐竹藥劑士主任で調劑に遺漏なく醫局藥局の看護婦諸嬢も親切なもの院長の御健在を祈る。

客足の絶えざる 中野吳服店

平町目貫き三丁目大通りで左右同業にハツまれてゐる中間に何時も客足の絶えた事のない『丸龜吳服店』中野康平氏は商賣上手と云ふものそれは店員諸君の自然なる愛嬌と人好きのする新柄の豐富なのが客を引きつけずにはおかないのである

一人が『いらつしやい』と聲をかけるとラヂオ式に全員にいらつしやいが傳はつてすぐお客の好みに應じて目の前に運ばれる品は欲しくなるもの許りで遂ひ買つてしまふ。

中野康平氏


釜屋商店總支配人
諸橋守次氏

東北に冠絶する 釜屋商店

釜屋商店は人も知る平否東北に冠絶せる大金物店、淋しい五丁目に巍然と建てる大殿堂は如何に商賣が手擴ひかを雄辯に物語つてゐる此大世帶の締括り、總支配人守次氏は豪放磊落、非常に抱擁力の大きな人で亦外交家、少壯なヤリ手中野康平氏も外交負けをしたと託つ程「ワッハヽ」吹き飛ばされたと御承知あれ。この放漫性な支配人に女房役としての勘定奉行の令弟元三郎氏はアノ體軀に似合はせぬ緻密な人で猪苗代湖の水よりも冷靜だ、最近易學に凝つたが上達が早い流石ブルヂョアの若旦で慾がないからよく當る、店員諸君も商賣もの、金物の樣に默々としてゐるが主人の意を體して親切で迅速に取扱はれるのは氣持ちがよい。元三郎氏は天地陰陽の理に基づいてか凡ゆる方面の本を藏してゐるのに驚く。

懇切を極むる 山野邊藥局

山野邊東次郎藥局平町五丁目角とよく廣告を見受けるそれ程宣傳巧みな氏を單に宣傳屋と誤解してはいけぬ病氣は豫感出來るものでないので冒かされてから氣がつくが、大低の場合は醫者へ驅けつける前に賣藥即ち市井の藥種屋へ飛び込めば間に合ふものが多い。その突刹の時に直ぐに記憶を呼び起すべくたえず多くの人々に知らせておく事は必要なことである　彼の『醫は仁術』の語は必ずしも醫者の專賣ではない此意味に於て山野邊藥局の東次郎氏は盛んに廣告をする。氏は雄辯の持主で親切な人たとへ廿五錢の賣藥に對しても用法其他說明は懇切を極めたもので說明をきいた丈で癒直る樣な感しがする明治藥學校出のチャキ〳〵の藥劑師でやがては平町に重きをなす一人である。

寫眞は　山野邊東次郎氏

優秀の技術 上田外科醫院

平南町通りに上田外科醫院がある、院長慈惠醫學士上田耕作氏は春秋に富む石城刀圭界の新人として知られてゐる頭腦明斷で優秀なる技術に至つては『上田先生でなければ』と評判されるのでも解る樣に、得難い國手である。

加ふるに現在の建物――家――そのものが大變に緣起のよい家でお醫者樣が開業すると必ず盛ると云ふ。けれども位置がよいと云ふハンデキャップはついても實際に能力があるのだから今日の隆盛を見るのは當然であらう。

新興漲る 二葉印刷所

平新開地仲町にカバ色に塗つた、南洋式の瀟洒な文化的に感じのよい建物？それは新興漲る美術活版印刷の『二葉印刷所』である。經營者熊謙次郎氏は双葉郡に知られた資產家の二男坊と生れ我儘一杯に育つた農科出の秀才であるが專門學はホッタラかして印刷所を始めたのでその道では未來がある。漱石（少し陳腐だが）の坊つチャンぢやないが鼻張りが強く負け厭ひで最近秋田から求めた純日本犬が平で一番強いと誇つてるお坊チヤン、そのデク（犬の名）が喧嘩して負け樣ものなら一日氣嫌が惡いと……が流石に金を措しまず技量ある從業員を入れて業務に當らせてゐるので繁忙を極めてゐるのは偉いものである。

醫即仁なる 藤沼醫院

世間の醫者には物慾にかられて報酬を第一に考へる者が多い中に平町紺屋町『內科小兒科皮尿科藤沼醫院』の院長藤沼平次郎氏は當代稀に見る淸節の士であり。また溫情の人である病家ときけば何を措いても直ちに見舞ひ、その診療は親切丁寧でさながら慈父の子に對する趣きがある。斯ういふ立派な先生の下に居る看護婦ナイチンゲールの諸嬢も又丁寧で親切で……愛と情をもつて患者に接し心から看護に從事されるので皆涙を以て感謝して居る

搔槌小路に移轉せる 山野邊辯護士 事務所

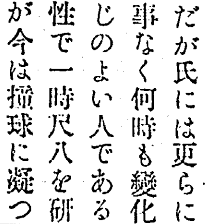
辯護士山野邊義敏氏は苦學力行の士で透徹した頭腦の持主で非常に理性の勝つた人であれでゐて內に燃ゆる樣な情熱を藏する人である。口數の少いどちらかと云へばダンマリ屋の方だが靜に語り出す一言一句は相手によく吞み込ませねばおかない力がある。兎角辯護士は橫柄に構へたがるものだが氏には更らに權態振る事なく何時も變化のない感じのよい人である中々の凝性で一時尺八を研究されたが今は撞球に凝つて時々家へ歸るのを忘れるといふ熱心さ、最近搔槌小路へ移轉されて益々御多忙は慶賀の至りである。

『平和削節』製造元 鈴木商店

常磐線湯本驛前に『鈴木道太郎商店』がある　海陸物產問屋で手擴く取引をして居るが殊に近來メッキリ聲價を高めた磐城魚節を削つて袋入れとした『平和削節』の製造發賣は好評を博し炭山、農村方面の賣行は非常なものである。値段が安くてダシがきいて量の多い事は他に比類をみないとの事でその販路は益々擴張されてゆくであらう　尙養鷄家の一時も欠く事の出來ない『鷄の餌』として魚粉又評判よく製造に追はれてゐる始末である。

親切！感じ良き 松柏館

磐城湯本町は往昔溫泉町として知られ幾多の物語りを生んでゐる、然し科學文明は桃源鄕を破壞しつくして昔日の俤をとゞめない。あわれ湯の町も昔語りにならうとしたが近來復湯して硫黃の香り高くあたりを立籠めてゐるその中に溫泉宿として知られた『松柏館』がある　總煉竹造り飾が煉瓦の湯槽は他に見られぬ凝つたもので主人榮一氏の心遣りが窺がはれて氣持ちがよい。


比佐榮一氏

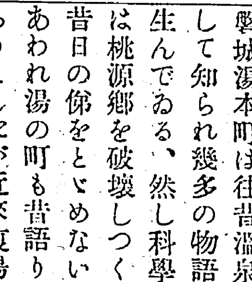
昔、榮チャン〳〵と大騷ぎされた美少年、今は湯本町百年の計を樹て、表面に活躍する偉丈夫、やはり大騷ぎされてなくてならぬ人氣は、昔も今も變らない。松柏館表二階より眺めた夜の情景――湯上りの一杯にきく溫泉節或は家族連れの一日の淸遊――松柏館は萬人向で感じがよい。

卓越せる技能 森合齒科醫院

植田町本町通り『森合齒科醫院』院長森合芳男氏は齒科醫界に重きをなしてゐるヤンギーゼントルマン、卓越せる技能は常に患者に安心を與へてゐる、學生氣分のぬけきらぬがお醫者樣にあり勝なモッタイぶる事なく氣輕な態度には皆敬服してゐる處である。もと齒醫者にかゝるのは死ぬ思ひをしたものであつたが進步した機械と學理を究めた氏の技能は更に何等の懸念なく日に患者の數を增してゆくのにみても、如何に凡ての點に優れてゐるかを知る事が出來る。

森合芳男氏

氏はスポーツマンで曾て平に居られた頃は撞球に熱中されたものであつたが今は弓劍道に精進して毎日氏の矢場に絃音の絶えた事がなく劍道にいたつては有段の腕前である。



去月二十七日水戶壽家の藝妓一行來平演藝會を催し平の藝妓が應援出場した、林家小六、品澤小光、三好家光惠、甲子小玉の姐さん達、此の姐さん達が平一流藝妓であると裏書さる自稱一流はどうしたですか

■平にタッタ一つの一人の商賣があつた、それは所謂タイコ持ちといふので二代目櫻川萬六さんといふ、ハゲさんが開業して居つたが此の頃ドロン……

■吳服行商で花柳方面に得意を持つて居つた板橋さんがトン死の由である。……人の命は判らぬものである

■去月二十七日水戶壽演藝會最中半鐘の音！それ火事と總立となるうちにも、小一流藝妓連殊にアツテ方、ウチの人も來て居るか知らぬから子ーなる程、消防の幹部方へ……　內助の責任觀念があるテ

■平子として獅子仕込みの米京の小豆は平は水に合はず、病氣許りして居るから郡山へと鞍替し去月は十二日赴任の途についたが、鐵道關係、其他株主連の見送りの多かつたとは小豆もなか〳〵味のあつたものであるワイ

■竹の家の眞木さん抱ひは〳〵藝妓十六人、外に仕込妓八人都合二十四妓といふ世帶その若い所おサトといふ妓が來て居る。何でも信州は長野からとかで、元玉川の喜代治と同じ所だとかである。

■品澤からは御ツル

■玉川からは、愛之助とかいふ中年が出て居る。この妓一度しまつた筈だが「笠間で」やはり左褄は戀しいと見えるの……

■カフイ歩きとして有名なるモダン斷髮のスミ子過般長岡某といふダンツクとラヂユーム宿屋で二三日滯在てな所をやつて居つたが、この頃實家向ひ鎌田にコモリかな、此頃妖姿が見えぬとカフイ歩きのモダンボーイ連搜しまはつて居るグナ

溫泉旅館
松柏館
電話五番

平町南町
[illegible]
電話一二一番

平町田町
高久病院
電話五一三番

內科小兒科皮尿科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番